

真木

第 207 号

〒260-0852
千葉市中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-225-7115

〒276-0042
八千代市ゆりのき台3-4-1101
前北かおる方
「真木」編集部
TEL 090-4363-3501

目次

千葉・県民文化祭 第65回千葉県俳句大会	1
千葉県俳句作家協会・秋の俳句短冊展	4
秋季吟行会	5
新春交流会のご案内	6
千葉県俳壇ニュース、結社賞	7
会員著書紹介、新入会員一句、基金御礼	8
受贈誌より、事務局日誌	9

千葉・県民文化祭 第65回千葉県俳句大会

千葉県俳句大会を終えて



増成栗人 実行委員長

千葉県俳句大会は、今年で六十五回目を迎えた。半世紀以上を越えてこの大会を滞りなく催し得たことに、ご来賓をはじめ実行に当られた諸氏に厚く御礼を申し上げたい。

今回は昨年に比し一般の部の事前投句が三百九名、千二百七十二句と、昨年に倍増する応募を得た。ジュニアの部も中学生、小学生から千八百八句の応募があり、関係者の多大なるご努力に改めて厚く感謝の意を表したい。

大会当日、朝よりかなり激しい雨となり、出席予定者の出足が鈍ったのであろうか、予想に反して参加者の数が激減。残念ながら少し淋しい

大会となってしまう。しかしそこに集った作家たちの情熱で明るき有意義な大会となり得たことを付記しておきたい。

来賓のご祝辞、応募句の表彰も終り、午後からは土肥あき子先生（俳人協会幹事、「絵空」同人）のご講演「月の力」。人がいかに月を愛でたかを、往古から現代に到るまでの文人、詩人、歌人、俳人の行跡をご紹介くださり、理解の届く明晰な洞察のあるお話を頂戴したことに感謝。この日の席題がたまたま「月」一般。講師との打ち合わせもなく事前にこの題を選んだことに不思議な縁を覚えていた。席題句の選句、披講、鑑賞、表彰などと限られた時間内で無事終了出来たことを、その任に当たってくださった役員諸氏に改めて厚く御礼を申し上げます。もうすぐ第66回千葉県俳句大会の準備が始まる。

実行委員長 増成栗人

千葉・県民文化祭 第65回千葉県俳句大会

【一般の部】

雑詠入賞者

千葉県知事賞

凌霄花ぼとりと近松物語

船橋 湯浅 康右

千葉県議会議長賞

手でちぎる男の料理夏来る

柏 茶谷 静子

千葉県教育長賞

桃を剥くかそけき光まはしつづ

香取 谷本 元子

千葉県俳句作家協会賞

晩年へ坐り直して月涼し

守谷 安田 政子

千葉日報社賞

かの世との往き来を露の能舞台

千葉 高橋 道子

千葉市観光協会賞

ひらがなのクラスに目高やつて来し

千葉 すすき巴里



千葉県知事賞
湯浅康右氏

優秀賞

暮れさうで暮れぬ山の端月見草

千葉 磯野 広子

一山は獣のうねり青嵐

君津 石井紀美子

新涼や色分けしたるスケジュール

八千代 村上喜代子

命あるものは影持つ広島忌

世田谷 関戸 信治

介護とは分かり合ふこと葛湯吹く

習志野 辻 忠樹

桑の実にとほき「私」と出遇ひけり

川口 木下 洋子

秀逸賞

敗戦日沖より父の忌日来る

香取 保坂 和郷

滝落ちてすつと抜きたる力かな

船橋 鎌田 光恵

北斎の波サーファーの翻り

流山 浦野 五郎

溜息のやうに崩れて薔薇匂ふ

富津 三枝かずを

木犀の香り日向を拵げをり

佐倉 稗田 寿明

紫陽花や縁を切る寺結ぶ寺

松戸 竹原新一郎

佳作賞

橋本 晶子

奥井 あき

宮崎英二郎

古谷 誠司

成田 美代

奥村 利夫

佐藤 鮎美

田村 雅子

佐久間敏高

大政 健夫

藤井 稜雨

幡 柏

野口 久子

大政 健夫

【ジュニアの部・小学生の部】

千葉県教育長賞

海のような心がゆれるいわし雲

木更津市立高柳小三年 新 陽惺

千葉県教育長賞

蝉しぐれわって放課後の合唱だん

千葉県立あすみが丘小五年 山田 大晟

千葉県芸術文化団体協議会長賞

ひまわりが太陽のこと見つめてる

市原市立ちはら台桜小五年 菅原 小春

千葉県俳句作家協会賞

ほうたるや清少納言の安らぎに

木更津市立祇園小六年 加藤 彩葉

千葉県俳句大会委員長賞

金魚すくいみんなのえがおすくつてる

市原市立ちはら台桜小四年 加藤 朱希

優秀賞

木更津市立高柳小三年 山田 玲奈

木更津市立南清小三年 岩井 萩

木更津市立南清小三年 小島 拓也

木更津市立波岡小三年 高橋 悠

市原市立ちはら台桜小六年 上原 弘貴

市原市立ちはら台桜小六年 山田すみれ

市原市立ちはら台桜小六年 荘司 愛美

市原市立ちはら台桜小五年 伊東瑠璃佳

木更津市立高柳小三年 倉形 真未

木更津市立祇園小三年 渡部 敦士

木更津市立祇園小三年 宗像 渉

(応募数 六三六組 一二七二句)

(応募数 五二三句)

【ジュニアの部・中学生の部】

千葉県教育長賞

セミの声体がどつと重くなる

流山市立南流山中二年 今別府陸人

千葉県教育長賞

走りだす水平線に積乱雲

流山市立南流山中一年 関根 快

千葉県芸術文化団体協議会長賞

掛かり稽古先輩の背に春の風

流山市立南流山中一年 岩淵 香雪

千葉県俳句作家協会会長賞

朝顔やパツと開いて陽が差した

流山市立南流山中一年 趙 彬

千葉県俳句大会委員長賞

父の日にロングシュートのプレゼント

千葉市立幕張西中二年 森本 壮

優秀賞

流山市立南流山中三年 中山 葵

流山市立南流山中二年 中浜 菜緒

流山市立南流山中三年 村上 優月

流山市立南流山中三年 佐藤 葵子

流山市立南流山中三年 今村 歩

流山市立南流山中一年 広田 直之

流山市立南流山中二年 池森俊太郎

流山市立南流山中二年 小林 久晃

流山市立南流山中三年 会川 咲

流山市立南流山中三年 岡野 光紗

(応募数 五八五句)

◆大会記

十月十五日(日)、千葉市の青葉の森公園芸術文化ホールにて千葉・県民文化祭、第六十五回千葉県俳句大会が開催された。生憎の大雨であったが、昨年と同じ五十二名の当日投句者、ジュニアの部の入賞者とその家族が集まった。

大会は石井紀美子理事長の司会、増成栗人実行委員長が登壇。今年が千葉県誕生百五十周年に当たることになんて、千葉県の地勢やこの会場で行われる短冊展など協会の催しにも触れつつ挨拶した。続いて、主催者として、県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課文化振興班長高山千夏氏の挨拶。さらに、来賓挨拶として千葉県芸術文化団体協議会会長吉本充氏から祝辞があった。今回、芸文協会会長賞を受賞した流山市立南流山中一年岩淵香雪さんの俳句「掛かり稽古先輩の背に春の風」について、剣道の経験を元に講評した。

その後、加藤峰子事務局長の読み上げで、一般の部の表彰式が行われた。講評では、能村会長が千葉県知事賞に輝いた湯浅康石氏の「凌霄花ほと

りと近松物語」について、「ぼとりと」が秀逸だったと称えた。

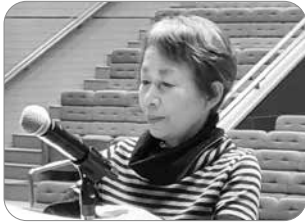
一般の部に続き、ジュニアの部の表彰式が行われた。読み上げは祐森司大会事務局長、講評は北川昭久副会長が担当した。

休憩を挟んで、午後は講演と当日句の句会。司会は染谷卓理事。まず、俳人協会幹事の土肥あき子氏が、「(月の力)いかに月を愛でてきたか」の題で講演した。各国の月探査ロケットのネーミングに始まり、「竹取物語」から現代詩人の俳句まで、月がどのように受容されてきたか、その変遷について説いた。

最後に、当日句の句会を行った。席題は「月」。参加者五十二名、一〇四句の投句があった。選句は理事のみが行い、重城弥生理理事、須田眞里子理事が披講した。今回から当日句向けの賞に関わる来賓は午後の部への出席を依頼した。そこで、表彰に移る前に、千葉市議会議長石川弘氏、千葉市文化連盟会長磯野和美氏が挨拶した。その後、講師の土肥あき子氏、増成実行委員長から講評があった。最後に、秋尾敏副会長が閉会の辞を述べ、来年の大会への積極的な参加を呼び掛けた。



挨拶する能村研三会長



千葉県市長賞 飯田晴氏



講演する土肥あき子講師

当日は協会の理事諸氏が運営を担当したほか、事前準備から当日の裏方までを、祐森司事務局長、山岸明子理事が担当しスムーズな進行を支えた。

◆【当日句】 席題「月」

千葉市長賞

月のバスをりをりを人をこぼしけり

飯田 晴

千葉市議会議長賞

けふよりは月に名のある夜々たのし

田村 雅子

千葉市教育長賞

合鍵を捨て月光の草の中

伊藤 素広

千葉市文化連盟会長賞

満月の裏側戦場かも知れず

齋 秀磨

千葉テレビ放送賞

後の月人虎と化す話ふと

山岸 明子

優秀賞

一人づつ訣れてひとり後の月

能村 研三

板塀のまだ濡れてをり後の月

茶谷 静子

寝待月この世の端にゐるやうな

村上喜代子

観音の手手くまなく月を浴ぶ

中村 世都

新刊の俳句の森にゐる良夜

石井紀美子

月齢は十三雁の列がゆく

増成 栗人

秀逸賞

満月や子の枕辺に読む絵本

崎谷 弘子

月白や城を背にして能舞台

重城 弥生

この奥は酒仙の栖月の秋

大政 建夫

月光や町は静かに老いてゆく

須田眞里子

父母と居られる時間今日の月

佐藤 鮎美

穂のものを瓶にそよがせ月を待つ

加藤 峰子

佳作

月の舟おもひで少し過積載

稗田 寿明

子を守る爪の野性を十三夜

秋尾 敏

かの戯面の猿出て踊れ小望月

滝口美智子

月待つや並びスワン船の首

藤井 稔雨

月天心庫裡の戸を繰る母の影

横尾かんな

千葉県俳句作家協会・秋の俳句短冊展

千葉県俳句作家協会では、九月五日から十一日まで、そごう千葉店地下ギャラリーにおいて、俳句短冊展を行った。協会役員、理事の色紙や短冊、二十九点が、写真とともに展示された。会場は人通りの多い連絡通路にあたり、たくさんの方の買い物客らが足を留めていた。出品作品は以下の通り。

辻々に山車の引き跡秋気澄む

能村 研三

枯蓮に音ありとせば枯るる音

増成 栗人

天の川人類火器を捨てられず

秋尾 敏

将門の興亡の地や曼殊沙華

北川 昭久

望郷や無垢拮抗の芒原

石井紀美子

人生の午後秋燕は高く飛ぶ

高橋 健文

未知もよし一つ年寄る今朝の秋

加藤 峰子

爽やかな風を丸ごと鯉の髭

三浦 侃

露草のミッキーマウスミニーマウス

前北かおる

金風となつて月山撫でてやろ

飯田 晴

釣り堀に余生のやうな四隅あり

伊藤 素広

豊年や米粒ほどの歯が二つ

葛西 茂美

海風のかしぐ木立や新松子

鎌田 光恵

空想の広がる遺蹟秋うらら

清水佑実子

水引の風ききすすゆふまぐれ

重城 弥生

花野ゆく誰もが少し不仕合せ

須田眞里子

放浪の行き着くところ蛇葺

高橋 宗史

日照雨してひかりの粒となる帰燕

滝口 滋子

葛の花奥の奥より水の音

中村 世都

どこまでも青空法師蟬しぐれ

染谷 卓

言葉にもかたちあるなら螢草

稗田 寿明

長月のそごうギャラリー人の川

平岡 育也

まだ魚になりきれぬ雲赤とんぼ

藤井 稔雨

孤高とはこの天心の今日の月

村上喜代子

秋うらら姉が弟に読む絵本

山岸 明子

踏み石と合はぬ歩幅よ十六夜

祐森 司

シート干す夜は虫籠となる庭に

石橋みちこ

十三夜島の電話に波の音

すずき巴里

那須岳へ振りかざしたる蜻蛉網

藤田 考成



令和五年度 秋季吟行会

流山

吟行記

九月二十一日（木）、ようやく秋の気配に包まれ始めた流山の町。時折の雨と曇り空ではあったが、まずまずの吟行日和である。

早朝からの流山市ボランティアガイドのご協力により、流鉄流山線平和台駅に降り立った参加者は、幾班かに分かれて順次吟行に出発した。

参加者に配布された流山市観光協会発行の「流山本町江戸廻廊」には、秋元家住宅土蔵、呉服新川屋店舗、寺田園旧店舗、笹屋土蔵などの国・登録有形文化財のほか、赤城神社、光明院などの寺社、さらには訪ねて楽しめる三十を超えるスポットが紹介されている。

投句締切りの時間までに、どこまで回れるだろうとの嬉しい悩みが聞こえていた。

江戸川沿いにある流山は、江戸時代から昭和初期にかけて舟運をもとに商業の中心地として栄えてきた。その歴史を感じさせる老舗が軒を連ねている。

また、小林一茶は、みりん醸造で財を成した秋元三左衛門（秋元双樹）との深い親交から幾度も流山を訪れており、本町界限には一茶の句碑や双樹との連句碑などが多数ある。吟行会にふさわし

く、本町エリアに限っても句材には事欠かない。

句会は、十一時半に受付開始、出句締切りは十二時半。県内各地から多くの俳人が集まり、参加者七十四人の盛会となった。

十三時十分、飯田晴理事の司会にて開会。欠席の能村研三会長に代わり、増成栗人副会長から俳句を通じた出会いを大切にして、親交を深めようとの開会挨拶があり、その後、参加者全員が一斉に選句に取り組んだ。

十四時二十分より、篠塚雅世氏、祐森司理事、加藤峰子事務局長による披講。休憩の後、藤井稜雨理事より「流山と武蔵野探勝」と題して、虚子一行が流山吟行を行った際の様子について講演があった。

その後、再開された句会では、増成栗人、秋尾敏、北川昭久副会長、石井紀美子理事長、加藤峰子事務局長からの特選句、注目句についての講評。石井理事長からの成績発表があり一位から二十位までの作家に賞品が授与された。

十六時三十分、北川副会長の閉会挨拶をもって、令和五年度の秋季吟行会は無事お開きとなった。

最後に、地元の流山俳句協会ならびに流山市ボ

ランティアガイドの皆様には、吟行会の運営のみならず、事前準備から献身的なご協力をいただき、無事故・大成功の吟行会とすることができた。ご関係の皆様のお力添えに心から感謝を申し上げます。

（藤井稜雨記）



理事による点盛り

秋季吟行会作品集

増成栗人副会長特選

秋ぐもり信濃の石の一茶句碑

多胡たかし

秋尾敏副会長特選

多羅葉の葉裏に深き秋の声

山口ひろよ

北川昭久副会長特選

相撲部も緬ひし大注連秋高し

大沢美智子

石井紀美子理事長特選

大しめ縄藁のしつばの稲穂かな

奥井 あき

加藤峰子事務局長特選

澄む秋や商家名残の大福帳

豊島 京子

入賞者と代表作品 (○内は順位)

①万華鏡くるりと過去へ秋の昼

須田眞里子

②豊の秋どんと味淋の一斗瓶

加藤 峰子

③秋ぐもり信濃の石の一茶句碑

多胡たかし

④多羅葉の葉裏に深き秋の声

山口ひろよ

⑤供花も無き義賊の墓や秋の声

和田 紀夫



司会の北川昭久副会長



一位 須田眞里子氏

⑥社へときぎはし百余木の実落つ

滋田 慧子

⑦大しめ縄絞りきつている残暑

石井紀美子

⑧多羅葉の息災と書く秋彼岸

小坂清一郎

⑨天晴の揮毫隸書や松手入

矢切 無明

⑩相撲部も緬ひし大注連秋高し

大沢美智子

⑪澄む秋や商家名残の大福帳

豊島 京子

⑫椋鳥の中へ一茶の雀かな

伊藤 素広

⑬色変へぬ松や寂びたる一茶句碑

弦巻喜久子

⑭史を秘めて色なき風の渡し跡

藤岡 貞夫

⑮秋霖の商家に覗く万華鏡

藤井 稜雨

⑯金秋や梁に書かれし当主の名

篠塚 雅世

⑰大しめ縄藁のしつばの稲穂かな

奥井 あき

⑱ものものふの別離の渡し秋思かな

金井 健治

⑲富士塚は神の遊び場秋の蝶

石山 幸月

⑳昼の虫斗圍の句碑の機銃痕

大政 建夫

参加者一覧 (入賞者は除く)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 明石 博子 | 秋尾 敏 | 秋元 初美 | 梓 孝江 |
| 新井 京子 | 飯田 晴 | 五十嵐紀子 | 池内 弘行 |
| 石田 和子 | 伊藤 和子 | 稲多たえ子 | 荏原由利子 |
| 江村美津子 | 大西 朋 | 小川 岱三 | 金井 照子 |
| 鎌田 光恵 | 北川 昭久 | 木谷 信雄 | 木谷 昇 |
| 木村 美翠 | 工川ひとみ | 小林あつ子 | 齊藤 智 |
| 坂井 博 | 佐々木和子 | 笹野 泰弘 | 澤田 啓三 |
| 塩野谷慎吾 | 清水佑美子 | 重城 弥生 | 高橋 宗史 |
| 田中 晴奈 | 寺尾 敬子 | 富永 美南 | 鳥飼 成雄 |
| 中田二三代 | 中村 世都 | 名取美枝子 | 西嶋久美子 |
| 西村 英雄 | 平岡 育也 | 平本 雅晴 | 藤野 武彦 |
| 増成 栗人 | 松尾 涼 | 松本 正子 | 丸山 良子 |
| 三浦 侃 | 箕輪カオル | 山岸 明子 | 山崎 純子 |
| 祐 森司 | 吉川 典子 | | |

新春交流会のご案内

広く会員並びに俳句愛好の皆様の交流の場とすべく「新春交流会」を左記の通り開催します。当日は第九回千葉俳句大賞の贈賞式も行いますので皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいませようご案内いたします。

日時 令和六年二月十一日(日) 会場 ホテルポルトプラザちば 二階ルビー 千葉市中央区千葉港八一五 Tel. 〇四三一二四七二二一

一、第九回千葉俳句大賞贈賞式 午後一時〜

二、新春交流俳句会 午後二時〜

三、新春交流祝賀会 午後四時〜

申込み締切り 令和五年十二月三十日(土)

申込み方法 所定の用紙に、俳句二句と指定事項を全て記載の上、投句二句と千円を同封して左記へお申込み下さい。

(現金書留または郵便小為替で送付。投句料の返却はいたしません。)

選句は協会役員・理事にて行い投句者全員に作品集を、入賞者には賞品を送ります。

申込先 〒二九二一〇〇五七 木更津市中央三一三一一六 重城弥生方 千葉県俳句作家協会 新春交流会係

電話 〇四三八一二一五五七四 問合せ先 新春交流会担当 平岡育也 電話 〇四三一二五一七二八四

千葉県俳壇二ニュース

館山市俳句連盟第十九回吟行句会

コロナ禍によつて見送られてきた吟行句会が、五月十五日、三年ぶりに実施された。参加者は四十七名。各自二句投句。参加者の互選と選者七名による選によつて、一句高得点順によつて入賞者が表彰された。

- 千年の倒木の黙風薫る 粕谷 鱧水
 - 太陽の涙かばかり天道虫 滝口 照影
 - 立ち漕ぎのふらここ涙乾くまで 小形 博子
 - 裸婦像の胸のふくらみ花は葉に 高梨 光素
 - 海見ゆる駅は燕の通い道 佐久間由子
 - 一筋の白き航跡夏来る 鈴木 福松
 - 滑り台一基ボツンと走り梅雨 小林 肇
 - 親の翔ぶ先が未来や燕の子 角口 秀子
 - 老鷺のときれとぎれに鳴く晴間 三尾 敦子
 - 夏鷗マストたゆたふ舳ひ船 池田 勝
 - 青空をまつすぐぬける今年竹 荒木 洋子
 - ベルが鳴る改札ぬける夏つばめ 安西加世子
- (会長 石崎和夫 報)

第六十回柏市民俳句大会

柏市俳句連盟主催の第六十回柏市民俳句大会が柏市教育委員会の後援を得て令和五年八月二十五日、柏市中央公民館に於いて開催された。参加者は一二八名であった。

上位入賞者(三十位までのうち十位まで)とその代表句は、次の通り。

◆入賞者(互選二句合点) 代表句

市長賞 大蘭 智子
市賞 大蘭 智子

議長賞 阿部 博子
赤いペディキュア浴衣で踊るサンバ

教育長賞 大政 建夫
かなかなや母息災の大欠伸

連盟会長賞 金田めぐみ
炎天に生きる力を試さるる

⑤ 灯を消して耳だけとなる虫の夜 永田くみ子

⑥ 限界へ噴水なんども立ち上がる 星野 一恵

⑦ 秋扇恋の微熱を折りたたむ 石山 幸月

⑧ 原爆忌燃えないゴミを出している 魏 秀磨

⑨ からうじて夫折る鶴や原爆忌 豊島 京子

⑩ 筆洗ふやさしさに似て金魚の尾 梓 孝江

● 結社賞 ●

第五十回響焰賞

響焰賞 「青山通り」 小林多恵子
制服に木洩れ日青山通り初夏 多恵子

響焰賞 「ひとかたまり」 大森麗子

純粋のひとかたまりの寒卯 麗子

佳作一席 「桜隠し」 藤巻基子

旅立ち桜隠しのふるさとから 基子

佳作二席 「隅田十景」 小澤什一

大川を小舟に揺られうららけし 什一

佳作三席 「遊行」 鈴木瑩子

七十路の坂のゆるやかたんぼ黄 瑩子

令和五年度 「好日三賞」 「年度賞」

好日賞 「まだ先に」 藤田由起

向日葵や終点はまだ先にある 由起

次席 「追憶」 宇根幸子

追憶の彼方に空ありしやぼん玉 幸子

佳作 「浮寝鳥」 北村土守

浮寝鳥見知らぬ齢を生きてをり 土守

青雲賞 「第二幕」 高丸正顕

第二幕三場の春の夢にをり 正顕

次席 「閉架図書」 森本香子

龍淵に潜み地下から閉架図書 香子

佳作 「つぶやき」 今井礼子

つぶやきを空にちりばめ額の花 礼子

佳作 「白秋期」 笠原のり子

鼻濁音身につかぬまま白秋期 のり子

白雲賞 「木の器」 石井稔

春宵やパクチーサラダは木の器 稔

年度賞 「口伝がすべて」 中嶋三雄

太古には口伝がすべて夏の月 三雄

(「好日」十一月号より)

第二十二回「万象」新人賞

「万象」新人賞 杉澤修

杣道に楓落葉の湿り踏み

(「万象」八月号より) 修

第二十一回万象俳句賞

万象俳句賞 「緑さす」 小板橋泰山

谷川に両手浸せり緑さす

次点 「海峡」 大内マキ子

海峡や夏毛艶めく岬馬

佳作 「子規庵にて」 村田由美子

病牀六尺庵に息づく夏の草

特別賞 「パタゴニア」 広瀬俊雄

夏の夜の大地を揺らすタンゴかな

(「万象」十月号より) 俊雄

第五回帆翔賞

帆翔賞 「ワシントン椰子」 林喜久子

梅雨明けのワシントン椰子亭々と

帆翔賞準賞 「深海魚」 早瀬和子

黒南風の市場に並ぶ深海魚

帆翔賞佳作 「ひぐらしの呪文」 國田欽也

ひぐらしの呪文に掛かりかけてゐる

帆翔賞佳作 「金魚玉」 中條ひびき

金魚玉マツサージ機に揉まれをり

帆翔賞佳作 「花丸」 長浜よしこ

平均点ならば花丸秋高し

帆翔賞佳作 「荷役」 堀木基之

また蟬の鳴き始めたる荷役かな

(「百鳥」八月号より) 基之

会員著書紹介

●『軸五十五周年記念誌(いそご集)』

昭和四十二年、井上富月を発行者とする同人誌としてスタートした「軸」の五十五周年を記念した一冊。

クレソンの水にはじまる初明り 河合 凱夫

鉛筆の落ちたる音か赤彦忌 秋尾 敏

ビッグバンよりの大空鳥帰る 荒木 洋子

木の実独楽打ち合っており心電図 倉岡 けい

ジャスマインの届くところに翅の友 平岡 育也

石ひとつ家まで蹴りし大試験 三浦 侃

(令和四年十月発行)

『軸五十五周年記念誌(いそご集)』編集委員会

●『我孫子市俳句連盟創立二十周年記念誌 手賀の風』

平成十四年、市内十二の団体の賛同を得て設立された我孫子市俳句連盟の二十年の歩みと諸氏の作品を収録する。

春キャベツ茹でて恙のなき暮らし 相川 健

あな美しや昏れて大きな春の月 梅澤 光子

里の灯のはや沼の面に冬隣 染谷 卓

十重二十重いづれ白雲山桜 長井 寛

針山の母の黒髪花曇り 原 瞳子

(令和四年十二月発行・我孫子市俳句連盟)

千葉県俳句作家協会

運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口座

郵便振替

〇〇一四〇一〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせていただきます。

新入会員一句

湯豆腐やあるだけでいいそれでいい 竹下喜代子

鉄棒の匂ふ手のひら修司の忌 五十嵐紀子

寒稽古百射を課して始めけり 尾川美保子

秋霖や終電を待つ影ひとつ 神崎 雅人

基金御礼 (令和五年六月一四日以降)

豊島 京子 平岡 育也 滝口 滋子

(令和五年一〇月二五日現在…五口、一万円)

受贈誌より

あびこ(三六八号)	日輪のとりりと溶けて麦の秋	染谷 卓
いには(十月号)	隠沼に声を響かせ鶴笑ふ	村上喜代子
沖(十月号)	この町の祭済みたる川あかり	能村 研三
音信(十月号)	新米を研ぐ水音の清かなる	白鳥紅星子
かずさホトトギス(六五二号)	まどろみし椅子に目覚めてより夜長	三枝かずを
きみつ文芸(第一四五号)	あれもこれも越えて米寿梅香る	野口 糸朗
響焰(十月号)	煮炊きしていのちをつなぎ夕焼雲	米田 規子
草の実(九月号)	夕風のふるさと老の臉にも	逸見 真三
鴻(十月号)	ひつそりと鬼の捨子に宵のくる	増成 栗人
好日(十一月号)	翅をわたることに始まる天道虫	高橋 健文
鳴(十月号)	友癒えよこの夕虹を仰ぎ見よ	加藤 峰子
軸(十月号)	唇のように孤独に秋の雲	秋尾 敏
獺祭(十月号)	池の面に惜しみなく映え柳散る	本田 攝子
野火(十月号)	釣られたること知らぬげに鯨の顔	菅野 孝夫

初蝶(十月号)

スニーカー片方落ちてみし夏野
 万象(十月号) 中山 和子

夜は秋の仮面の眼窩がらんどろ
 ベガサス(一七号) 江見 悦子

朧の夜よく振っててください
 百鳥(十月号) 羽村美和子

貝風鈴鉄風鈴と響き合ふ
 るんど(十月号) 大串 章

朝蟬激し知覧茶を濃く淹れよ
 朝蟬激し知覧茶を濃く淹れよ すぎき巴里

事務局日誌

◆第二回理事会(出席者26名)

日時 令和5年6月17日(土)

ホテルプラザ菜の花 四階 特別会議室
 議事 1 令和5年度第65回千葉県俳句大会につ
 いて

2 令和5年度流山市内秋季吟行会につ
 いて

3 令和5年度新緑交流俳句会につ
 いて

4 「第37回協会賞贈賞式」の結果と
 「第38回協会賞」の募集について

5 第9回千葉県俳句大賞について
 6 会報「真木」二〇六号について
 7 その他 事務局報告

◆第三回理事会(出席者24名)

日時 令和5年8月26日(土)

ホテルプラザ菜の花 四階 楨2

議事 1 令和5年度第65回千葉県俳句大会につ
 いて

2 令和5年度流山市内秋季吟行会につ
 いて

3 令和5年度新緑交流俳句会につ
 いて

4 「第38回協会賞」の募集について

5 第9回千葉県俳句大賞の作品募集につ
 いて

6 千葉県県民文化祭の短冊展示につ
 いて

7 会報「真木」二〇七号につ
 いて

8 その他 事務局報告

会員異動

新会員

竹下喜代子(八千代市) 五十嵐紀子(市原市)

尾川美保子(千葉市) 神崎 雅人(香取市)

謹 訃

吉岡 桂六様

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

第38回協会賞

応募締切…十二月十五日(金) 必着

※表彰式の日程が変更になりました。

誤 令和六年五月十九日(日)

正 令和六年五月二十六日(日)

編集後記

今号は、紙面の都合で「ひろば」はお休みと
 しました。(前北かおる)

歩いて俳句

創刊 鳥居三朗
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所

〒276-0023 八千代市勝田台一七七一
D-10005
電話 & FAX 0477-4877-7115

心を満たす俳句

「鴻」俳句会

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二四一六谷口方
電話 0477-3631-4508
FAX 0477-3631-5110

◆誌代/年間 一、〇〇〇円

主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司

月刊俳誌 鷗 (しぎ)

鳴俳句会

代表 加藤 峰子
創刊 田中 午次郎
再刊 伊藤 白潮

誌代 1年 12,000円
(見本誌 500円)

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 1274-14 加藤方
電話・FAX 043-225-7115
http://shigi-haikukai.com/

自然と人間の一体化を目指す
月刊 好日

創刊 阿部 笈人
主宰 高橋 健文

誌代 一年 一、二〇〇〇円(送料共)

〒270-0007 千葉県松戸市中金杉一ノ七八
好日俳句会
電話 0477-7131-6495
振替 002501141278

月刊俳誌 沖 (おき)

俳句ルネッサンス

主宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円
見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊50周年 軸

軸俳句会

主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
84円切手3枚で見本誌贈呈

俳誌 あびこ

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 0477-2182-4441
郵振替 00100141189074
あびこ俳句同好会

主宰 染谷 卓

一度きりの今を楽しむ いには

INWA

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

—いには俳句会—

〒276-0036 千葉県八千代市高津390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索:いには俳句会

現代俳句同人誌 遊牧

代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七一-11307
電話 0477-3361-081
FAX 0477-3257-7338
遊牧俳句会